

IFRS16号リース ソリューション

リース資産を一元管理し、リース会計処理の自動化により
業務の効率と正確性を向上させます

IFRS16号リース ソリューション概要

IFRS16号リースのポイント

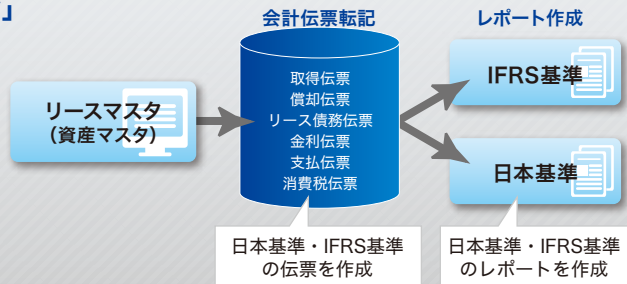
- ファイナンスリースとオペレーティングリースの区別がなくなり、すべて貸借対照表上に「使用権資産」と「リース負債」を認識します。
- 従来リース契約対象に加え、不動産賃貸借契約なども対象になります。日本基準とIFRS基準で使用権資産の金額評価方法が異なります。

2019年より
強制適応
されます

ソフテの「IFRS16号リース ソリューション」

IFRS16号リース ソリューションは、リース関連業務の効率と正確性を高める業務改革ツールです。

リース契約情報を固定資産マスタに登録することにより、SAP ERP上で一元的に契約管理、物件管理を行うことができます。日本基準とIFRS基準両方に同時対応可能です。



IFRS16号リース ソリューションの特長

1 リース契約の一元管理

従来のファイナンスリース・オペレーティングリースや、今回から対象になる不動産賃貸借契約など、あらゆるリース契約を資産マスタに登録することで、一元的に契約管理、物件管理を行います。また、資産・債務の残高管理も一元的に行うため、財務会計とリース取引を統合した情報管理が可能になり財務会計データの網羅性、透明性が高まります。

2 複数会計基準の元帳管理への対応

日本基準、IFRS基準それぞれの会計基準で転記制御が行え、双方の元帳管理が可能です。会計転記を日本基準のみ行い、IFRS基準データを外部出力して連結処理で対応することも可能です。

3 リース関連業務の効率化

ユーザが行う作業は資産マスタの登録だけです。ファイナンスリースの判定や割引現在価値の算出、資産・債務の計上、未払消費税の計上は全て自動処理するため、業務効率や正確性の向上を図ることができます。

4 豊富な導入実績に裏打ちされた対応力

2008年4月新リース会計基準適用以降、多くの大手企業様でご利用いただいております。そのノウハウで、この度のIFRS16号に対応しました。当ソリューションは、これまでの導入企業様の実務要件を取り込んで豊富な機能を装備しており、お客様の様々なご要望に対応できるものと確信しております。

